上川管内第２回EBE協議会

事例発表

各種調査結果を活用した組織的な授業改善等に係る自校の取組について

令和６年12月６日

北海道士別翔雲高等学校

発表の内容

１　本校生徒の現状と課題

２　令和５年度の取組と反省

３　令和６年度の目標

４　取組の中間状況と今後の見通し

1　本校生徒の現状と課題

○　令和４年度北海道高等学校「学習状況等調査」の結果から

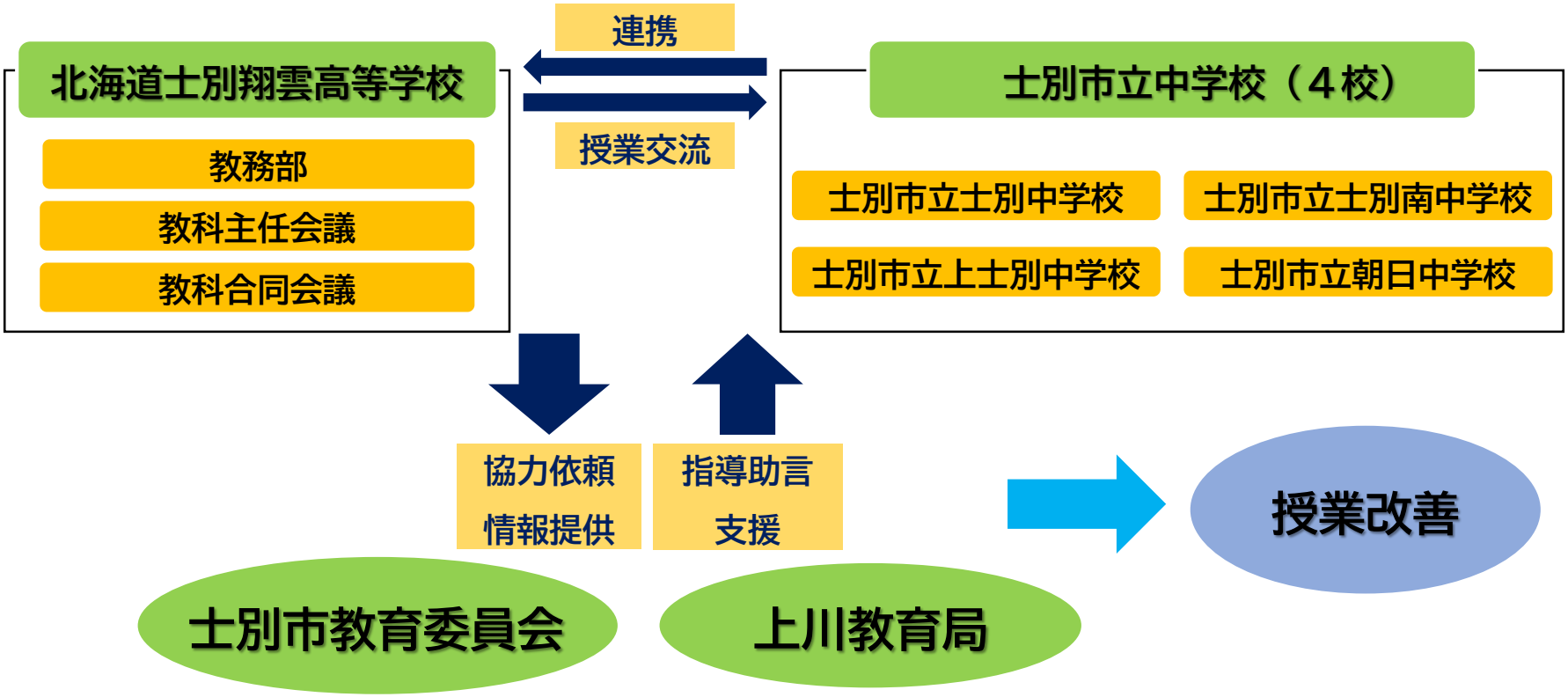
・主体的・対話的で深い学びの視点からの授業の状況

①**「課題の解決に向けて、自分で考え自分から取り組んでいた」**に対して**「当てはまる」が28%（全道比＋7.2%）**と高いが、**「当てはまらない」が8%（全道比+1.2%）**であった。

②**「各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる作業を行っていた」**に対して**「当てはまる」が21%（全道比＋4.5%）**、**「当てはまらない」が9%（全道比-1.2%）**であった。

北海道士別翔雲高等学校　ＥＢＥ協議会

目　的
中高６年間を一体的に捉えた生徒の学力や学習状況等の分析結果を踏まえた、組織的な授業改善や学力向上等に向けた校内体制の整備、具体的な授業改善の確立。



Ｒ５改善目標：

〇ＩＣＴを活用した効果的な授業実践について

1. 使用状況について、上位２項目の回答割合が70％以上を維持
2. 中高でそれぞれ使用しているアプリなどの情報交換を行い、効果的な活用方法を共有する。

〇探究的な学びの視点からの授業の状況について

1. 課題解決に向けた取り組みや、学んだことを生かしながら自分の考えをまとめる作業の質問項目での否定的回答の割合の減少を目指す
   課題解決：中学校20％以下　高校20％以下
   既知活用：中学校30％以下　高校20％以下

２　令和５年度の取組と反省

●活動

	校内授業改善等	中学校・高校の連携	市教委との連携
Ｒ５	○単元毎に課題学習の時間を設け、指導案（略案）を蓄積しておく。 ○中学校での授業公開（９/22士別翔雲授業参観公開日、10/２上川管内教育研究会北部地区研究大会、11/２士別市教育研究発表会） ○高校での授業公開11/９公開研究授業	○授業改善の視点の共有⇒中高交流会（教科など形態は未定）の実施 ○ＩＣＴ教材等の現状把握と共有 ○探究的な学びについて、取り組み状況の現状把握と共有、生徒間交流など ○平均のみではなく追跡調査（抽出）による変容の調査	○士別出身者の学力状況の共有（管外流出者も含め）

2　令和５年度の取組と反省

現状	R４中学３年生	市内４校	R４高校１年生	翔雲高	R５中学３年生	市内４校	R５高校１年生	翔雲高
高校：今年度に受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか。 中学校：１・２年生のときに受けた授業で、コンピュータなどのICT機器をどの程度使用しましたか。	ほぼ毎日	27.4%	ほぼ毎日	30.0%	ほぼ毎日	62.0%	ほぼ毎日	6.1%
	週３回以上	41.0%	週３回以上	49.0%	週３回以上	31.5%	週３回以上	25.5%
	週１回以上	26.5%	週１回以上	20.0%	週１回以上	2.8%	週１回以上	51.0%
	月１回以上	4.3%	月１回以上	1.0%	月１回以上	3.7%	月１回以上	15.3%
			月１回未満	0.0%			月１回未満	2.0%
高校：授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた。 中学校：１，２年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた。	当てはまる	20.5%	当てはまる	28.0%	当てはまる	30.6%	当てはまる	24.5%
	どちらかといえば、当てはまる	59.0%	どちらかといえば当てはまる	50.0%	どちらかといえば、当てはまる	48.1%	どちらかといえば当てはまる	52.0%
	どちらかといえば、当てはまらない	16.2%	どちらかといえば当てはまらない	14.0%	どちらかといえば、当てはまらない	16.7%	どちらかといえば当てはまらない	21.4%
	当てはまらない	4.3%	全くしていない	8.0%	当てはまらない	4.6%	全くしていない	2.0%
高校：授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる作業を行っていた。 中学校：１，２年生のときに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる作業をまとめる活動を行っていましたか。	当てはまる	13.7%	当てはまる	21.0%	当てはまる	21.3%	当てはまる	12.2%
	どちらかといえば、当てはまる	53.0%	どちらかといえば当てはまる	54.0%	どちらかといえば、当てはまる	42.6%	どちらかといえば当てはまる	46.9%
	どちらかといえば、当てはまらない	29.1%	どちらかといえば当てはまらない	16.0%	どちらかといえば、当てはまらない	29.6%	どちらかといえば当てはまらない	26.5%
	当てはまらない	4.3%	全くしていない	9.0%	当てはまらない	5.6%	全くしていない	14.3%
高校：学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていた。 中学校：学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか	当てはまる	26.5%	当てはまる	53.0%	当てはまる	30.6%	当てはまる	41.8%
	どちらかといえば、当てはまる	53.0%	どちらかといえば当てはまる	42.0%	どちらかといえば、当てはまる	55.6%	どちらかといえば当てはまる	48.0%
	どちらかといえば、当てはまらない	16.2%	どちらかといえば当てはまらない	4.0%	どちらかといえば、当てはまらない	7.4%	どちらかといえば当てはまらない	8.2%
	当てはまらない	4.3%			当てはまらない	4.6%		
	学級の友達との間で話し合う活動を行っていない	0.0%	全くしていない	1.0%	学級の友達との間で話し合う活動を行っていない	0.0%	全くしていない	2.0%
高校：今年度受けた授業では、先生から示される課題や、クラスやグループの中で自分たちで立てた課題に対して、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して、発表するなどの学習活動に取り組んでいた。 中学校：総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか	当てはまる	29.1%	当てはまる	52.0%	当てはまる	32.4%	当てはまる	31.6%
	どちらかといえば、当てはまる	45.3%	どちらかといえば当てはまる	38.0%	どちらかといえば、当てはまる	47.2%	どちらかといえば当てはまる	51.0%
	どちらかといえば、当てはまらない	21.4%	どちらかといえば当てはまらない	8.0%	どちらかといえば、当てはまらない	13.9%	どちらかといえば当てはまらない	14.3%
	当てはまらない	4.3%	全くしていない	2.0%	当てはまらない	6.5%	全くしていない	3.1%

〇データの比較・分析から

①ＩＣＴ機器の活用頻度に係る「ほぼ毎日」「週３回以上」

Ｒ５ 中３（市内４校）83.5%　Ｒ５ 高１（本校）31.6%

②探究的な学びの視点に係る授業の否定的な回答（「どちらかと言えば当てはまらない」「当てはまらない」）の割合

「課題解決に向けて自分で考え取り組んだ」

Ｒ５ 中３（市内４校）21.3%　Ｒ５ 高１（本校）23.4%

「各教科等で学んだことを生かして自分の考えをまとめる」

Ｒ５　中３（市内４校）35.2%　Ｒ５ 高１（本校）40.8%

取組の成果

〇データの比較・分析を通して、中高で連携を図る重点項目が明確になり、授業改善に向けた方向性を共有することで、各教科の授業において、効果的な交流を行うことができた。

〇授業の交流を通して、ＩＣＴの効果的な活用や探究的な学びにおける授業の実践について、学びの接続を踏まえた授業改善が今後大きく期待できる。

令和６年度ＥＢＥ協議会に係る会議（７月30日（火）実施）

〇参加者：市内４中学校教頭・教諭、士別東高教頭・教諭、
上川局教育支援課高等学校教育指導班主任指導主事

〇中学校でのICT活用状況は、日常的な活用の段階にあり、ロイロノートなどを活用している。士別南中では生徒自らが判断・選択させる段階にある。

〇改善目標について、士別中から表現力が課題に焦点を当てた授業改善を。

【主任指導主事からの助言】

①ＩＣＴの活用頻度が高いことは個別最適な学びが充実している可能性がある。ぜひ、生徒が主体的に学習を進められるように育成をしてほしい。

②市内全体の児童・生徒が安心して学べる学習環境の整備をしてほしい。

③高校で行われる公開授業では、中学校と連携した合同の指導案検討が実施できると望ましい。

④エビデンスの数値は現状を知り情報共有する手段。分析した上で改善に向けた取り組みを進めていくことが重要である。

Ｒ６改善目標：

〇ＩＣＴを活用した効果的な授業実践について

1. 使用状況について、上位２項目の回答割合が**８０**％以上を維持
2. 中高でそれぞれ使用しているアプリなどの情報交換を行い、効果的な活用方法を共有する。

〇探究的な学びの視点からの授業の状況について

1. 課題解決に向けた取り組みや、学んだことを生かしながら自分の考えをまとめる作業の質問項目での否定的回答の割合の減少を目指す
   課題解決：中学校　**２０**％以下　高校　**２０**％以下
   既知活用：中学校　**３０**％以下　高校　**２０**％以下

３　令和６年度の目標

●活動（予定含む）

	校内授業改善等	中学校・高校の連携	市教委との連携
Ｒ６	○単元毎に課題学習の時間を設け、指導案（略案）を蓄積しておく。 ○士別市教育研究発表大にて授業参観及び研究協議を行い、授業改善の視点について情報共有を図る。 ○ＩＣＴを活用した研究授業を実施 ○探究的な学びの視点に着目した研究授業を実施	○中学校及び高校において、研究公開授業を実施。高校で行う研究公開授業では特定の教科において、中学校の先生と指導案検討会の実施。 ○ＩＣＴ教材等の現状や授業での課題点の把握と共有 ○探究的な学びについて、取り組み状況の現状把握と共有、生徒間交流など ○平均のみではなく追跡調査（抽出）による変容の調査 ○９月末頃、重点項目等について生徒アンケートの実施	○士別出身者の学力状況の共有（管外流出者も含め）

●本校で想定される具体的な取組（案）

〇校内の授業改善に向けて

1. ＩＣＴを活用した授業実践（教材や指導案）の蓄積。
2. 総合的な探究の時間や教科指導（課題学習）などを通じた探究的な学びの視点に着目した授業や指導の実施。
3. 中学校で実施される上川管内教育研究会北部地区研究大会（10月１日）、士別市教育研究大会（11月１日）の授業参観等の参加。
4. ９月末および年度末において、授業評価アンケートに合わせ重点項目等について１・２年生へのアンケートを実施
5. 学習状況等調査や上記項目４の調査結果の分析および教職員への周知。
6. 前期期末考査時の校内研修にて「若手教員による「目指すべき学校像とは何か」のプレゼン＆Figjamを用いたKJ法によるグループワーク」を実施。

４　取組の中間状況と今後の見通し

●本校で想定される具体的な取組（案）

〇校内の授業改善に向けて

1. ＩＣＴを活用した授業実践（教材や指導案）の蓄積。
2. **総合的な探究の時間や教科指導（課題学習）などを通じた探究的な学びの視点に着目した授業や指導の実施。**

高校２年生による中学校での探究活動の発表会を企画。
⇒市内外の中学校に依頼
⇒現在市外の中学校と日程調整中

5. 学習状況等調査や上記項目４の調査結果の分析および教職員への周知。
6. 前期期末考査時の校内研修にて「若手教員による「目指すべき学校像とは何か」のプレゼン＆Figjamを用いたKJ法によるグループワーク」を実施。

４　取組の中間状況と今後の見通し

●本校で想定される具体的な取組（案）

〇校内の授業改善に向けて

1. ＩＣＴを活用した授業実践（教材や指導案）の蓄積。
2. 総合的な探究の時間や教科指導（課題学習）などを通じた探究的な学びの視点に着目した授業や指導の実施。
3. **中学校で実施される上川管内教育研究会北部地区研究大会（10月１日）、士別市教育研究大会（11月１日）の授業参観等の参加。**
4. ９月末および[illegible]授業評価アンケートに合わせ重点項目等[illegible]は何か」のプレゼン&Padlettを用いた形式による「ルーブリック」を実施。

今年度は北部地区研究大会が市外での実施ということもあったが、両大会に授業参観。

４　取組の中間状況と今後の見通し

●本校で想定される具体的な取組（案）

〇校内の授業改善に向けて

1. ＩＣＴを活用した授業実践（教材や指導案）の蓄積。
2. 総合的な探究の時間や教科指導（課題学習）などを通じた探究的な学びの視点に着目した授業や指導の実施

９月３日実施。翔雲高校としての強みや大切にすべきこと、維持すべきところと見直すべきところ、地域の活用ができるところなどに共通認識をもつ。
⇒教育課程の編成やスクール・ミッション、ＣＳの協議にも活用

5. [illegible]

6. **前期期末考査時の校内研修にて「若手教員による「目指すべき学校像とは何か」のプレゼン＆Figjamを用いたKJ法によるグループワーク」を実施。**

４　取組の中間状況と今後の見通し

●本校で想定される具体的な取組（案）

〇校内の授業改善に向けて

1.　ＩＣＴを活用した授業実践（教材や指導案）の蓄積。

調査結果の傾向等の分析は７月に実施して教職員と共有。
９月末に授業評価アンケートに合わせて調査実施。

4.　９月末および年度末において、授業評価アンケートに合わせ重点項目等について１・２年生へのアンケートを実施

5.　学習状況等調査や上記項目４の調査結果の分析および教職員への周知。

6.　前期期末考査時の校内研修にて「若手教員による「目指すべき学校像とは何か」のプレゼン＆Figjamを用いたKJ法によるグループワーク」を実施。

4　取組の中間状況と今後の見通し

令和5年度CBA学力テスト・学習状況等調査の結果について（士別翔雲編：19期生対象に実施）

○全道の調査学校数は222校、調査生徒数は22371名である。（令和5年度第1学年を対象）
○（　　）は前年の数値である。

英語	知識・技能	思考・判断・表現
翔雲	**75.4**	**79.1**
全道	64.5	65.6

国語	知識・技能	思考・判断・表現
翔雲	**50.8**	**58.1**
全道	39.1	46.5

数学Ⅰ	知識・技能	思考・判断・表現
翔雲	**52.9**	**42.9**
全道	41.0	31.6

数学A	知識・技能	思考・判断・表現
翔雲	**66.2**	**30.9**
全道	48.8	24.7

※ 詳細は設問・大項目別正答率を参照のこと

1　基本的生活習慣等について

※比・差がともに大きいところが顕著なところ

(1)朝食を毎日食べている。

	している		どちらかといえば、している		あまりしていない		全くしていない	
翔雲	**78.6%**	**(78.0%)**	**10.2%**	**(8.0%)**	**7.1%**	**(11.0%)**	**4.1%**	**(3.0%)**
全道	70.1%	(71.9%)	14.4%	(13.4%)	8.9%	(8.6%)	6.6%	(6.1%)

	している		どちらかといえば、している		あまりしていない		全くしていない		傾向
前年比・差	100.7%	0.6%	127.6%	2.2%	64.9%	-3.9%	136.1%	1.1%	
全道比・差	112.1%	8.5%	70.8%	-4.2%	80.6%	-1.7%	61.5%	-2.6%	

(2)毎日、同じくらいの時刻に寝ている。

	している		どちらかといえば、している		あまりしていない		全くしていない	
翔雲	**41.8%**	**(42.0%)**	**48.0%**	**(47.0%)**	**10.2%**	**(9.0%)**	**0.0%**	**(2.0%)**
全道	35.0%	(34.1%)	43.6%	(43.2%)	17.2%	(18.2%)	4.2%	(4.4%)

	している		どちらかといえば、している		あまりしていない		全くしていない		傾向
前年比・差	99.6%	-0.2%	102.0%	1.0%	113.4%	1.2%	0.0%	-2.0%	
全道比・差	119.4%	6.8%	110.0%	4.4%	59.4%	-7.0%	0.0%	-4.2%	↑

(3)毎日、同じくらいの時刻に起きている。

	している		どちらかといえば、している		あまりしていない		全くしていない	
翔雲	**69.4%**	**(70.0%)**	**27.6%**	**(27.0%)**	**3.1%**	**(2.0%)**	**0.0%**	**(1.0%)**
全道	60.1%	(61.1%)	33.4%	(32.4%)	5.3%	(5.5%)	1.1%	(1.1%)

	している		どちらかといえば、している		あまりしていない		全くしていない		傾向
前年比・差	99.1%	-0.6%	102.0%	0.6%	153.1%	1.1%	0.0%	-1.0%	
全道比・差	115.4%	9.3%	82.5%	-5.9%	57.4%	-2.3%	0.0%	-1.1%	

(4)普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲームをしますか（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含みます）。

	4時間以上		3時間以上、4時間より少ない		2時間以上、3時間より少ない		1時間以上、2時間より少ない	
翔雲	**21.4%**	**(17.0%)**	**7.1%**	**(11.0%)**	**26.5%**	**(15.0%)**	**15.3%**	**(20.0%)**
全道	20.8%	(19.7%)	11.6%	(11.6%)	15.9%	(16.3%)	15.7%	(15.9%)

	30分以上、1時間より少ない		30分より少ない		全くしない	
翔雲	**10.2%**	**(16.0%)**	**8.2%**	**(9.0%)**	**11.2%**	**(12.0%)**
全道	11.2%	(10.9%)	11.5%	(10.7%)	13.2%	(15.0%)

	4時間以上		3時間以上、4時間より少ない		2時間以上、3時間より少ない		1時間以上、2時間より少ない		傾向
前年比・差	126.1%	4.4%	64.9%	-3.9%	176.9%	11.5%	76.5%	-4.7%	↑↑
全道比・差	102.8%	0.6%	61.3%	-4.5%	167.1%	10.6%	97.3%	-0.4%	↑

	30分以上、1時間より少ない		30分より少ない		全くしない	
前年比・差	63.8%	-5.8%	90.7%	-0.8%	93.5%	-0.8%
全道比・差	91.1%	-1.0%	70.9%	-3.3%	85.1%	-2.0%

(5)普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などをしますか（携帯電話やスマートフォンを使って学習する時間やゲームをする時間

	4時間以上		3時間以上、4時間より少ない		2時間以上、3時間より少ない		1時間以上、2時間より少ない	

	4時間以上		3時間以上、4時間より少ない		2時間以上、3時間より少ない		1時間以上、2時間より少ない		傾向

4　取組の中間状況と今後の見通し

学習状況等調査の抽出問題の調査状況

令和6年9月11日
教　務　部

				R6前期（9月実施）		
		R4高校1年生	R5高校1年生	R6高校1年生	R6高校2年生	R6高校3年生
今年度に受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか。	ほぼ毎日	30%	6%	44.0%	27.3%	19.2%
	週3回以上	49%	26%	38.1%	34.1%	35.6%
	週1回以上	20%	51%	15.5%	29.5%	39.4%
	月1回以上	1%	15%	1.2%	5.7%	4.8%
	月1回未満	0%	2%	1.2%	3.4%	1.0%
授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた。	当てはまる	28%	25%	41.7%	30.7%	51.9%
	どちらかといえば当てはまる	50%	52%	50.0%	59.1%	41.3%
	どちらかといえば当てはまらない	14%	21%	8.3%	8.0%	6.7%
	全くしていない	8%	2%	0.0%	2.3%	0.0%
授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる作業を行っていた。	当てはまる	21%	12%	22.6%	30.7%	44.2%
	どちらかといえば当てはまる	54%	47%	64.3%	48.9%	41.3%
	どちらかといえば当てはまらない	16%	27%	13.1%	20.5%	13.5%
	全くしていない	9%	14%	0.0%	0.0%	1.0%
学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていた。	当てはまる	53%	42%	46.4%	34.1%	52.9%
	どちらかといえば当てはまる	42%	48%	42.9%	55.7%	34.6%
	どちらかといえば当てはまらない	4%	8%	10.7%	9.1%	11.5%
	全くしていない	1%	2%	0.0%	1.1%	1.0%
今年度受けた授業では、先生から示される課題や、クラスやグループの中で自分たちで立てた課題に対して、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して、発表するなどの学習活動に取り組んでいた。	当てはまる	52%	32%	44.0%	38.6%	47.1%
	どちらかといえば当てはまる	38%	51%	48.8%	56.8%	42.3%
	どちらかといえば当てはまらない	8%	14%	7.1%	4.5%	10.6%
	全くしていない	2%	3%	0.0%	0.0%	0.0%

目標：上位２項目の回答割合が80%以上

目標：否定的回答の割合が20%以下

目標：否定的回答の割合が20%以下

目標：否定的回答の割合が20%以下

目標：否定的回答の割合が20%以下

4　取組の中間状況と今後の見通し

	R4高校1年生	R5高校1年生	R6高校1年生	R6高校2年生	R6高校3年生	
ＩＣＴ	30%	6%	44.0%	27.3%	19.2%	目標：上位２項目の回答割合が80%以上
	49%	26%	38.1%	34.1%	35.6%	
課題解決	14%	21%	8.3%	8.0%	6.7%	目標：否定的回答の割合が20%以下
	8%	2%	0.0%	2.3%	0.0%	
既知活用	16%	27%	13.1%	20.5%	13.5%	目標：否定的回答の割合が20%以下
	9%	14%	0.0%	0.0%	1.0%	

現状では改善の傾向が見られる

●本校で想定される具体的な取組（案）

〇中学校・高校の連携について

7. 授業参観公開日（９月20日）や教科指導訪問（11月11日）、授業改善セミナー（12月４日）といった高校で行う公開授業への案内。
8. ＩＣＴ教材等の現状や使用しているアプリの活用方法などの情報交換や、授業での課題点の把握と共有を教科間で実施（今年度は一部教科に絞って実施を目指す。）。
9. 上記項目７および８について、可能な限り指導案検討とそれを受けた授業の実施、合評会の機会を設定。ただし、まずは場を設けることを優先すべきであり、情報交換等に終わってしまってもやむなしと思われる。
10. 探究的な学びについて、取り組み状況の把握（内容や目指す力など）の共有の機会を設定（教務・進路間など関係者が揃った場の設定）。

●本校で想定される具体的な取組（案）

〇中学校・高校の連携について

7.　授業参観公開日（９月20日）や教科指導訪問（11月11日）、授業改善セミナー（12月４日）といった高校で行う公開授業への案内。

8.　ＩＣＴ教材等の現状や使用しているアプリの活用方法などの情報交換や、

授業参観公開日では士別南中より６名の先生が来校。教科指導訪問、授業改善セミナーでも中学校の先生の来校が見込まれる。

果の実態、自評会の機会を設定。ただし、ありき場を設けることを優先すべきであり、情報交換等に終わってしまってもやむなしと思われる。

10.　探究的な学びについて、取り組み状況の把握（内容や目指す力など）の共有の機会を設定（教務・進路間など関係者が揃った場の設定）。

7.　授業参観公開日（９月20日）や教科指導訪問（11月11日）、授業改善セミナー（12月４日）といった高校で行う公開授業への案内。

〇教科指導訪問の様子

１年　現代の国語
３年　古典探究
にて実施

7.　授業参観公開日（９月20日）や教科指導訪問（11月11日）、授業改善セミナー（12月４日）といった高校で行う公開授業への案内。

〇教科指導訪問の様子

研究協議では本校教員、局高校班主査以外に教育長や近隣中学校教員、高校教員も参加し、本時の授業やＩＣＴを活用した授業実践、観点別学習状況の評価の取組状況について情報共有を図った。

授業参観公開日では立ち話程度であったが、教科指導訪問にて情報共有を図れた。指導案検討は教科の負担が増している中で実現が難しい状況であった。

8. **ＩＣＴ教材等の現状や使用しているアプリの活用方法などの情報交換や、授業での課題点の把握と共有を教科間で実施（今年度は一部教科に絞って実施を目指す。）。**
9. **上記項目７および８について、可能な限り指導案検討とそれを受けた授業の実施、合評会の機会を設定。ただし、まずは場を設けることを優先すべきであり、情報交換等に終わってしまってもやむなしと思われる。**
10. 探究的な学びについて、取り組み状況の把握（内容や目指す力など）の共有の機会を設定（教務・進路間など関係者が揃った場の設定）。

（1）取組の中間状況の分析

●ＩＣＴの活用については授業での活用やClassiなどによる学習環境の浸透が見られたことや、１・２年生がともに活動の主体が発表活動に推移して行く中で利用の場面も増え、ＩＣＴ活用の実感が得られたと考えられる。

●教科指導において深い理解を伴った知識の質を問う問題や、知識・技能を活用し思考力・判断力・表現力等を発揮して解くことが求められる問題への対応、総合的な探究の時間での探究活動の浸透が既知活用や課題解決につながったと考えられる。

（1）取組の中間状況の分析

〇今後もデータの比較・分析を進めることで、中高で連携を図る重点項目を明確にし、授業改善に向けた方向性を共有することで、各教科の授業において、効果的な交流を目指していく。

〇授業の交流をとおして、ＩＣＴの効果的な活用や探究的な学びにおける授業の実践について、学びの接続を踏まえた授業改善が今後も期待できる。

〇一方で中高間で日程調整が難しいことが多い。年間計画設計時に組み入れられるとよりスムーズな動きが可能となる。そのため市教委などに仲介していただくことも必要と思われる。

〇デジタル（ＩＣＴ）一辺倒ではなく、アナログとデジタルのバランス（調和）を吟味する必要がある。

（2）今後の見通し

月	取組
11	授業実践 士別市教育研究発表大会への参加：授業参観と研究協議 教科指導訪問を活用した公開授業の設定：授業参観と研究協議
12	授業実践（継続） 授業改善セミナーを活用した公開授業の設定：授業参観と研究協議 第２回EBE協議会で取組の経過と成果を発表。
２～３	授業実践（継続） 学習状況等調査・ＣＢＡ学力テストを実施。
３	１年間の取組の達成状況の共有と検証 次年度に向けた取組計画の策定

上川管内第２回EBE協議会

事例発表

各種調査結果を活用した組織的な授業改善等に係る自校の取組について

令和６年12月６日

北海道士別翔雲高等学校